

令和6年度

兵庫県立農林水産技術総合センター 年報
(森林林業編)

兵庫県立農林水産技術総合センター
森林林業技術センター

目次

I 組 織.....	- 2 -
1 所在地.....	- 2 -
2 土地・建物.....	- 2 -
3 予算（令和6年度決算）.....	- 2 -
4 機構.....	- 2 -
5 職員.....	- 3 -
II 業 務.....	- 4 -
1 試験研究・事業.....	- 4 -
2 普及活動.....	- 12 -
III 業 績.....	- 15 -
1 試験研究の主な成果.....	- 15 -
2 センター研究報告に掲載した事項.....	- 15 -
3 ひょうごの農林水産技術（森林林業編）に掲載した事項.....	- 15 -
4 外部に発表した事項.....	- 15 -
5 試験研究成果・事例発表会.....	- 22 -
6 森林林業技術フォーラム.....	- 22 -
7 森林林業技術センター公開デー.....	- 23 -
8 特許・実用新案・商標登録の出願および登録状況.....	- 23 -
9 表彰・受賞・学位等.....	- 24 -
10 現地指導.....	- 24 -
11 委員・アドバイザー等.....	- 24 -
12 研修生・見学生の受け入れ.....	- 26 -
13 研究員の受け入れ.....	- 27 -
14 資格・認定研修への講師派遣.....	- 27 -
15 出版物等.....	- 27 -

※本年報で記載している事項は、令和7年3月31日現在のものです。

I 組織



本所 (全景)

I 組織

1 所在地

森林林業技術センター（本所） 宍粟市山崎町五十波 430
 緑化センター 朝来市山東町野間 902-3

2 土地・建物

区分	土地 (㎡)	建物 (㎡)		備考
		建面積	延面積	
本所	48,460.02	3,512.96	4,541.52	
五十波試験林	303,089.00	-	-	宍粟市山崎町五十波字西ノ谷 1063-29 外 4 筆
川戸試験地	37,027.00	4.14	4.14	宍粟市山崎町川戸 1283-1
塩田試験林	38,468.00	-	-	宍粟市山崎町塩田字箆桶 336-12
市場採穂園	1,173.00	-	-	宍粟市山崎町市場字齊ノ本 562-1
小計	428,217.02	3,517.10	4,545.66	
緑化センター	193,581.17	748.07	880.45	
合計	621,798.19	4,265.17	5,426.11	

3 予算（令和6年度決算）

項目	金額（千円）	備考
職員費	111,894	
森林林業技術センター維持運営及び試験研究費	38,588	
合計	150,482	

4 機構

森林林業技術センター	所付	1 庶務に関すること
		2 前号に掲げるもののほか、他部の所掌に属しないこと
	森林活用部	1 林木の育種及び育苗についての試験研究に関すること
		2 森林の育成についての試験研究に関すること
		3 森林保護についての試験研究に関すること
		4 林業経営についての試験研究に関すること
		5 森林の多面的機能の維持増進についての試験研究に関すること
		6 災害に強い森づくりについての試験研究に関すること
	木材活用部	1 木材の加工についての試験研究に関すること
		2 木材の利用についての試験研究に関すること
		3 林業に関する技術及び知識の普及に関すること
		4 林業に関する普及指導を行う職員の資質の向上に関すること
		5 普及指導に必要な調査及び研究に関すること
	緑化センター	1 林木育種に関すること

5 職員

(1) 職員数

(単位：人)

	所付	森林 活用部	木材活用部		緑化 センター	合計
			研究	普及		
事務職	3					2
技術職	1	6	3	3		13
臨時的任用職員	1		1			2
会計年度任用職員	1	1	1		5	8
合計	6	7	5	3	5	26

※所長兼木材活用部長は所付に含めた。

(2) 職員一覧

職名	氏名	職名	氏名
所 長	山 瀬 敬 太 郎	木 材 活 用 部	
所 付		部 長	(山瀬敬太郎)
副 所 長	三 木 盛 年	課長(木材活用担当)	永 井 智
課 長 補 佐	山 田 直 子	林業専門技術員	志 水 徳 人
”	佐 藤 幸 代	”	浅 田 佐 知 子
臨時的任用職員	栗 山 美 香	主 任 研 究 員	船 引 大 輔
会計年度任用職員	瀬 畑 直 人	研 究 員	藤 本 千 恵
森 林 活 用 部		主 査	山 下 毅
部 長	高 瀬 光 朗	臨時的任用職員	LEE CHANGGOO
上 席 研 究 員	藤 堂 千 景	会計年度任用職員	三 浦 義 弘
主 任 研 究 員	伊 東 康 人	緑 化 セ ン タ ー	
研 究 員	中 川 湧 太	所 長	(山瀬敬太郎)
研 究 員	八 瀬 順 也	会計年度任用職員	嘉 門 登
主 任	岩 槻 和 正	”	内 藤 比 抄 子
会計年度任用職員	室 岡 晴 美	”	大 前 隆 司
		”	小 山 忠 昭
		”	増 田 健 二

Ⅱ 業 務



少花粉スギについてのテレビ取材対応 (p22 参照)

II 業 務

1 試験研究・事業

(1) 課題・事業等一覧

ア 主要研究課題

課題名	研究期間	担当	財源
広葉樹・針葉樹の危険木伐採後における根の土壌補強強度の維持技術の開発	令 6～10	森林活用部	一部国庫

イ 一般研究課題

課題名	研究期間	担当	財源
森林造成におけるシカ害防除技術の検証	令 3～7	森林活用部	県単
割れや変形のないスギ平角材の乾燥手法の確立	令 4～7	木材活用部	一部国庫
スギ等横架材における含水率・寸法・クリープ挙動の長期検証	令 4～7	木材活用部	県単
スギ大径材の価値向上のための加工技術の開発	令 3～7	木材活用部	一部国庫
スギ心材の黒変を抑制する製品生産技術の確立	令 4～8	木材活用部	一部国庫
品種情報を踏まえた少花粉スギ、ヒノキの特性把握及び植栽適地の検討	令 6～10	森林活用部	県単
低密度植栽における施業体系の確立	令 5～7	森林活用部	県単
シカ不嗜好性植物を活用した低コスト造林技術の検討	令 3～7	森林活用部	県単

ウ 重点領域研究推進課題

課題名	研究期間	担当	財源
令和 6 年度は該当なし			

エ 行政依頼事業

事業名	依頼機関	事業期間	担当
木材強度等の依頼試験	民間企業等	平 8～	木材活用部
林木育種管理事業	林務課	昭 31～	森林活用部
森林の防災機能効果調査事業（第 4 期）	治山課	令 3～7	森林活用部
マツクイムシ防除に関する調査事業	治山課	昭 54～	森林活用部

オ 民間等受託研究等

受託研究名	依頼機関	事業期間	担当
令和 6 年度は該当なし			

(2) 新規に実施した課題

ア 課題名

広葉樹・針葉樹の危険木伐採後における根の土壌補強強度の維持技術の開発

イ 区分 一般・県単

ウ 期間 令和6～10年度

エ 担当

森林活用部 藤堂千景、山瀬敬太郎

オ 背景

兵庫県では頻発した山地災害の教訓から、森林の防災面の機能強化を図る「災害に強い森づくり」が行われている。その取組の一つである里山防災林整備事業は、人家裏の広葉樹危険木等の伐採による保全対象の保護を主体とした事業であるが、針葉樹も混在している。これまでに、伐採した広葉樹の根の土壌補強強度（以下、土壌補強強度とする）は経年による低下が明らかとなっており、土壌補強強度の維持が必要である。また、萌芽再生しない針葉樹は土壌補強強度の低下程度も定量的にわかっていない。

カ 目的

針葉樹の危険木伐採後の土壌補強強度の低下程度を定量化する。また、高木にならない樹木（中低木樹種）の利用（伐採前の前生木や植栽木の利用）や簡易な土木的工法による広葉樹・針葉樹の危険木伐採後の土壌補強強度の維持手法について明らかにする。

キ 構成

- (ア) 針葉樹の危険木伐採後の根の土壌補強強度低下程度の把握（令6～9）
- (イ) 中低木樹種の利用の提案（令6～10）
- (ウ) 簡易な土木的工法による土壌補強維持手法の提案（令8～10）
- (エ) 整備方法の体系化の提案（令9～10）

ア 課題名

品種情報を踏まえた少花粉スギ、ヒノキの特性把握及び植栽適地の検討

イ 区分 一般・県単

ウ 期間 令和6～10年度

エ 担当

森林活用部 中川湧太

オ 背景

本県では、将来的に県産林業用苗木（スギ、ヒノキ）の品種系統を少花粉苗木、特定苗木の2系統とする計画である。これらの品種選抜は、既に成木となっている母樹（親世代）の特性を評価して行っている。一方で、実際に植栽されるのは実生世代（子世代）であり、実生世代での特性の評価や特性に基づく植栽適地の把握が必要である。また、種子生産者である県は、供給種子の継続した品質向上が求められており、品種ごとの特性の評価は今後の種子の品質向上のバックデータとなる。

カ 目的

少花粉苗木の初期成長、花粉量といった系統特性を解明し、それらが十分に発揮される県内の植栽適地及びその場所での将来の資源量を推定する。

キ 構成

- (ア) 系統としての特性評価（令6～10）
- (イ) 生育に及ぼす環境要因の解明と将来資源量の推定（令8～10）

(3) 継続して実施した課題

ア 課題名

森林造成におけるシカ害防除技術の検証

イ 区分 一般・県単

ウ 期間 令和3～7年度

エ 担当

森林活用部 八瀬順也、伊東康人、中川湧太

オ 目的

ドローン等先端技術による防護柵点検手法を開発するとともに、その実用性を検証する。加えて、ドローン等先端技術に対応した新たな防護柵を検討する。防除箇所における樹林化の検証を行い、既存手法の有効性を評価する。加えて、多雪地における防除技術を追加検証する。

カ 内容

(ア) 防護柵の維持管理における省力化手法の検討

ドローンによる防護柵の点検時間は、防護柵タイプ、プロット平均傾斜には影響されにくいことがわかった。目視による防護柵の点検では、ネット柵は金網柵やハイブリット柵よりも点検時間を要した。

(イ) シカ害防除技術の追加検証

防護柵高は、前回測定時の柵高が高いほど低下しやすくなる傾向が見られた。防護柵タイプ別の低下傾向は、スカート一体型ネット柵 = スカートありネット柵 = ネット柵 > ハイブリット柵 > 金網柵となった。全タイプのシカ柵において、破損は確認されなかった。

ア 課題名

割れや変形のないスギ平角材の乾燥手法の確立

イ 区分 一般・一部国庫

ウ 期間 令和4～7年度

エ 担当

木材活用部 LEE CHANGGOO、船引大輔、永井智

オ 目的

寸法精度が高く、割れのない左右心去り平角材および上下心去り平角材の生産手法の確立を目指す。心持ち平角材において、仕上げ後に割れが発生するメカニズムを検証し、仕上げ後も割れが発生しない乾燥手法を提案する。

カ 内容

(ア) 上下心去り平角材における乾燥手法の検討

スギ上下心去り平角材を2ヶ月間の天然乾燥後に①蒸気式乾燥機および②蒸気・圧力併用型乾燥機で人工乾燥を行い、材の品質について評価した結果、乾燥直後の含水率（乾燥日数・平均含水率 ①約22日・13.5% ②約8日・9.6%）は有意な差が認められたが、それ以外の項目では有意な差が認められず、同様の品質を有することが確認できた。

(イ) 心持ち平角材における仕上げ後の割れの発生メカニズムの検証と割れが発生しない乾燥手法の提案

100℃以上での湿度制御機能が備わっていない小型乾燥機において、側面のケーブル孔を開閉することにより高温セット処理の湿度条件を制御する方法を確立した。

ア 課題名

スギ等横架材における含水率・寸法・クリープ挙動の長期検証

イ 区分 一般・県単

ウ 期間 令和4～7年度

エ 担当

木材活用部 永井智

オ 目的

スギ等横架材を対象に、仕上げ時含水率と長期荷重下での含水率・寸法・曲げクリープ挙動等との関係を追跡するとともに、仕口形状が異なる（TAPOS・在来仕口）接合試験体のせん断クリープ挙動を比較し、県産梁桁横架材の品質・性能向上や、施工者等ユーザーへの利用啓発に資する。

カ 内容

(ア) 曲げ試験体の寸法、含水率、曲げクリープ評価

スギ上下心去り平角（蒸気・圧力併用乾燥材）（120×240mm）について約1年間（R5.10～R6.10）、曲げクリープ試験と寸法・含水率計測を実施した。相対クリープは12月以降安定的に推移したが、7月以降に増大傾向が認められた。幅・高さは1年間で若干増大し、含水率はわずかな振幅で変動する等、本試験体は集成材並みに含水率が管理され納品されていたものと考えられた。

(イ) 仕口試験体のせん断クリープ評価

TAPOS と在来仕口の4期にわたる比較試験を通じて、TAPOS が長期的にも優れたせん断耐力を維持している傾向が認められている。

ア 課題名

スギ大径材の価値向上のための加工技術の開発

イ 区分 一般・一部国庫

ウ 期間 令和3～7年度

エ 担当

木材活用部 船引大輔、LEE CHANGGOO、永井智

オ 共同研究機関及び研究者

森林総合研究所 井道裕史

カ 目的

スギ大径材の新たな加工技術として、丸太の半径方向を梁高さ方向とする上下心去り平角を採材し、材面の品質や強度特性を評価する。平角を採材した残部から柂目板を採取して直交集成パネルを作製し、部材の品質評価や床材料としての強度性能評価を行う。横架材の要求性能を満たす製材品を大径材から生産するため、丸太段階で製材品の曲げヤング係数を推定するヤング係数分布モデルを開発・改良する。

キ 内容

(ア) 柂目板直交集成パネルの性能評価

ネダレス工法用ビスで固定したパネルの面内せん断試験を行い、短期基準せん断耐力 7.64 kN の結果を得た。

(イ) 大径材の径級別木取り方法の検討

スギ丸太、上下心去り平角、フリッチ、ラミナ（いずれも生材）の動的ヤング係数を用い、既存ヤング係数分布モデル式と改良した式の適用性を検討した結果、決定係数に大きな差はなく、既存式は大径材にも適用可能であることが示唆された。

ア 課題名

スギ心材の黒変を抑制する製品
生産技術の確立

イ 区分 一般・一部国庫

ウ 期間 令和4～8年度

エ 担当

木材活用部 船引大輔、
LEE CHANGGOO、永井智

オ 共同研究機関及び研究者

九州大学 内海泰弘、森林総合研
究所 香川聡、秋田県立大学 工藤
佳世、鹿児島大学 安田悠子

カ 目的

原木丸太から製材品を生産する
過程における心材の変色状況・含水
率・pH 調査を実施し、各工程での材
色変化の実態把握を行うとともに、
材色変化に係る要因等を検討する。
また、蒸気・圧力併用型乾燥機の乾
燥過程における心材色の変化状況
を評価するとともに、一般的な常圧
乾燥機への材色改善技術の反映の
可能性について検討する。

キ 内容

(ア) スギ心材の材色変化の実態把握

樹幹内における物質移動経路を
三次元的に追跡・特定する新たな手
法として染料・元素導入+EDXRF
法を構築するとともに、複数の装置
で分析の効率化について検証した。

(イ) 蒸気・圧力併用環境下での乾燥に
よる心材の材色改善効果の評価

蒸気・圧力併用型乾燥機で乾燥し
たスギ平角材について、製品生産工
程（養生～仕上げ）での材色変動を
ポータブル色差計により把握した。
乾燥後に低下した明度は仕上げ後
に上昇し、仕上げ5日後に低下した。

ア 課題名

低密度植栽における施業体系の
確立

イ 区分 一般・県単

ウ 期間 令和5～7年度

エ 担当

森林活用部 中川湧太

オ 目的

スギ、ヒノキを対象に、「中密度植
栽地での既存データに基づき、低密
度植栽条件でシミュレーションし
た施業体系」と「低密度植栽地で新
たに取得するデータ」との比較によ
り、地域の実態に応じた低密度植栽
における施業体系を確立する。

カ 内容

(ア) 低密度植栽における施業体系の確
立

県内ヒノキ低密度植栽地（植栽密
度：平均 1,600 本/ha、地位：概ねII）
では、15-17 年生で樹高が平均 7.3m、
幹材積が平均 62 m³/ha であった。こ
れは、収穫予想表（S61，兵庫県）で
の推定樹高 7.7m、幹材積 62 m³/ha
（植栽本数補正值）とほぼ同一であ
った。一方、残存率（現存本数/植栽
本数）は、収穫予想表では 94%に対
し、植栽地では 72%と大幅に小さく、
この低下はシカ食害等の影響による
ものと推察された。

スギ、ヒノキにおいて、林分密度
管理図及び地位指数曲線を調製し
た。調製した地位指数曲線では、高
齢林分でのデータの偏りに起因す
る高齢級での樹高成長の伸び悩み
や推定精度の低下が確認された。

ア 課題名

シカ不嗜好性植物を活用した低コスト造林技術の検討

イ 区分 一般・県単

ウ 期間 令和3～7年度

エ 担当

森林活用部 伊東康人、中川湧太、藤堂千景

オ 目的

モニタリング調査により、シカ不嗜好性植物の食害状況・成育調査を実施し、シカ不嗜好性植物（苗木）の実地での有効性を評価する。加えて、シカ不嗜好性植物を活用した植栽地全体としての樹林化モデルを検討したうえで、それらを活用した樹林化手法を実地検証する。シカ不嗜好性植物において、コンテナ苗、ポット苗の既存規格等での実用性の評価を行い、実用性に優れた苗木規格等を検討する。

カ 内容

(ア) シカ不嗜好性植物を活用した樹林化手法の検証

不嗜好性植物の生存率 ± 標準偏差は、ウリハダカエデ 0.45 ± 0.41 、オオバアサガラ 0.57 ± 0.40 となり、場所により生存率が異なった。

(イ) シカ不嗜好性植物における実用性に優れた苗木規格等の検証

ウリハダカエデの伸長成長量は、1生育期時点ではコンテナ苗よりもポット苗で、植栽時苗高が 60cm のものより 30cm のもので大きかったが、2生育期以降ではそれらの影響が見られなかった。

(4) 実施した事業

ア 事業名

木材強度等の依頼試験

イ 担当

木材活用部 永井智、船引大輔、
LEE CHANGGOO

ウ 目的

県内の木材業者等から依頼を受けた木材及び木質材料の JIS 並びに JAS に準じた強度試験等を行い、試験成績書を発行する。

エ 内容

(ア) 試験項目

密度、含水率、曲げ試験、縦圧縮試験、横圧縮試験、引張試験、せん断試験、釘・木ねじ引き抜き試験、硬さ試験、動的ヤング係数試験など

(イ) 実施内容

内容	件数
LVL 曲げ試験	20
耐震机の強度試験	4
パレット釘引き抜き試験	3
薄板押抜き試験	10
ビス接合部のせん断試験	3
およびビス引き抜き試験	
表面硬さ試験	2
MDF 座屈試験	3
合計	45

ア 事業名

林木育種管理事業

イ 担当

森林活用部 中川湧太、八瀬順也、
岩槻和正、木材活用部 山下毅

ウ 目的

緑化センター採種園において、主要造林樹種の品種系統が明らかな優良種子を生産することにより、健全な森林整備の推進を図る。

エ 内容

(ア) 林木育種管理事業・採種園採穂園改良事業

少花粉ヒノキの剪定といった管理・改良作業、ジベレリン処理等の種子結実促進作業（延べ 846 本）、袋掛け（カメムシ防除）による発芽率向上作業（計 1,350 袋）、カメムシ類定点モニタリングをはじめとする調査研究を実施した。

(イ) 次世代採種園整備事業

採種母樹用苗木としてスギ・ヒノキ約 1,000 本の育成管理を実施した。また、接ぎ木 690 本（県選抜スギ特定母樹 10 品種）を実施した。

(ウ) 林業種子採取事業

下表のとおり精選種子を生産した。品質評価を実施のうえ、過年度産を含めスギ（少花粉）ほか計 44.4%の種子を配布した。

樹種	特性	採種量 (%)	発芽率 (%)
スギ	少花粉カメ	21.2	7
	少花粉	19.7	44
ヒノキ	少花粉カメ	4.6	46
アカマツ	抵抗性	0.1	39
クロマツ	抵抗性	0.1	73

※カメ：袋掛け（カメムシ防除）実施分

(エ) 次代検定林整備事業

遺伝系統が明確な苗木約 2,000 本の育成管理を実施した。

ア 事業名

森林の防災機能効果調査事業

イ 担当

森林活用部 藤堂千景、岩槻和正

ウ 目的

災害に強い森づくり事業の効果を検証するため、土留工設置による表面侵食防止効果、災害緩衝林および流木止め工の流木災害防止効果、森林整備による根系の崩壊防止効果等を調査する。

エ 内容

土留工設置個所(宋栗市山崎町上比地、佐用町口長谷)にて土砂回収を行い、整備の効果が持続していることを確認した。

ミツマタ植栽箇所において、ミツマタの成長と光との関係を調査したところ、開空度 35%以上になるとミツマタの成長が良くなることがわかった。

流木止工設置個所 69 箇所を確認し、異常がないことを確認した。

平成 30 年に整備を行った間伐区と整備を行っていない無間伐区のコナラの地上部成長と根の直径成長を確認したところ、根に関しては間伐区のコナラの成長が有意に良かった。

朝来管内の針広混交林整備地(第 1、2 期) 9 調査地 18 調査区のうち 6 調査地 9 調査区においておおむね順調に樹林化が進んでいた。林化が妨げられていた箇所の要因としては、シカの食害影響であった。

これらの内容は、第 4 期災害に強い森づくり事業検証報告書(2025)で報告された。

ア 事業名

松くい虫防除に関する調査事業

イ 担当

森林活用部 伊東康人、木材活用部 山下毅

ウ 目的

薬剤散布等の松くい虫(マツノマダラカミキリ)防除対策を適切なタイミングで実施するために、松くい虫の成虫発生時期を予測する。

エ 内容

(ア) 松くい虫発育状況調査

松くい虫成虫の羽化がみられるまで原則 5 日おきに被害材を割材し、松くい虫の発生状況(幼虫、さなぎ、成虫)を調査した。

(イ) 松くい虫成虫の発生消長調査

初めて成虫がみられた日から当年の 8 月 31 日まで原則毎日、羽化した松くい虫成虫を数えた。

(ウ) 環境条件調査

当年の 1 月 1 日から発生消長調査が終了するまで毎日の平均気温を調査し、日ごとの有効積算温度を算出した。

2 普及活動

(1) 普及指導員等の資質の向上

ア 段階別研修

(ア) 新任・再任普及指導員研修 (5/31)
新任及び再任の林業普及指導員を対象に、林業普及指導事業等制度や現地指導の手法等について研修を行った(9名)。

(イ) 若手林学職研修(採用1年目)(7/29～30)

宍粟市内の針葉樹林と広葉樹林の混交林整備事業地で、森林資源調査実習を1泊2日で実施した(9名)。

(ウ) 若手林学職研修(採用4、5年目)(11/11～12)

宍粟市内の搬出間伐計画地で作業道現地踏査及び路網企画提案実習を1泊2日で実施した(9名)。

イ 林業技術普及研修等(専門項目別研修)

林業普及指導員の資質向上、専門的な知識、技能の習得を図るために、森林経営、施業技術、林産の専門項目について研修を実施した(内容は別表1のとおり)。

ウ 全体研修(2/10 林務関係職員研修会)

主伐・再造林に関する県内での取組実践報告を行うとともに、市町の森林環境譲与税事業の現状を知り個別市町の課題解決をテーマにグループワークを行うことで事業推進に係る県の役割について意識の醸成を図った(40名)。

エ 中央研修及び全国シンポジウム等

林業普及指導員の資質向上を図るため、国の主催する専門項目別研修16回に計19名を派遣した。

(2) 林業技術の指導

ア 試験研究成果の普及

(ア) 木材利用研修等の受入れ

林務課が主催する兵庫県産木材見学ツアー等を受入れ、当センターが開発したTAPOS(テイポス)や大径材利用技術等を紹介した(参加者計50名)。

(イ) イベント等でのパネル等展示

住まいづくりフェア(6/8～9 姫路市)、ひょうご木材フェア(10/27 神戸市)、ひょうご里山フェスタ(11/3 宝塚市)、県立農林水産技術総合センター公開デー(11/16 加西市)、森林林業技術センター公開デー(11/17 宍粟市)、WOODコレクション2024(12/19～20 東京都)において、当センターが開発した技術等を紹介するパネル及びサンプルの展示を行った(来場者計700名)。

イ 全県的課題に関する技術指導

令和5年度末作成した「主伐・再造林低コスト普及モデル」の林業事業体等への展開を図るため、各種研修会での説明や、現地での指導を行った。

ウ 林業普及指導の統括

全県の林業普及指導を統括する立場で、各普及指導区を巡回指導して地域の課題を普及指導計画に盛り込むとともに、普及活動の進捗管理を行った(4普及指導区、計12回)。

エ 林業情報活動システム化

林業普及指導員が作成した「森林・林業普及情報報告書」をとりまとめて林業普及の共有フォルダに掲載し、普及活動の情報収集・共有を図ったほか、林業普及指導職員活

動実績「年輪」に編集のうえ、当センター HP（<https://sinrin.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/popularization>）に掲載した。

（３） 調査研究

ア 再造林地にかかる調査

下刈り実施の判断基準を明確にするため、造林木の成長、植生の繁茂状況の調査を行った（7箇所）。

イ 林業機械保有状況調査

県内の林業経営体が保有する高性能林業機械等の保有状況と稼働の実態について調査した。

ウ 丸太選別工程の効率化調査

主伐時に大量に生産される丸太について、集積土場での選別作業時のICT技術活用による作業の効率化について調査検証を行った。

（４） 地域林業のリーダー育成

ア 指導林家・青年林業士

（ア）新規認定

指導林家1名（黒田道生氏）、青年林業士1名（福原佳孝氏）を新たに認定した。

（イ）指導林家等研修

最新の林業施策の情報提供と地域材利用による小規模バイオマス発電施設の視察研修を開催した。（11/19 参加者 30名）。

イ 林業研究グループ

（ア）近畿ブロック林業グループコンクールへの参加

林業グループの活動状況や成果を発表（8/23 滋賀県、104名）。

（イ）林研グループリーダー研修の実施

グループ活動を活性化するため、他グループの活動を視察し体験する研修を開催（8/20 参加者 10名）

（別表 1） 林業技術普及研修

研修の専門項目（内容）	日数	受講者数	うち普及指導職員	実施月日
1 森林経営 （森林環境譲与税）	2	50	30	10/2, 2/10
2 施業技術 （林業種苗、スマート林業技術、架線集材技術）	2	70	40	10/8, 2/27
3 林産 （木材利用技術）	1	90	10	5/24
計	5	210	80	

Ⅲ 業 績



公開デーでの曲げ破壊試験の実演 (p23 参照)

Ⅲ 業績

1 試験研究の主な成果

令和6年度に終了した課題がないため、該当なし

2 センター研究報告に掲載した事項

発表年月	発表タイトル	発表者	所属
令和6年度は該当なし			

3 ひょうごの農林水産技術（森林林業編）に掲載した事項

(79号 (R6.8 発行)、80号 (R7.3 発行))

No.	発表タイトル	執筆者	所属
79	特定母樹スギ、ヒノキ採種園の整備	中川湧太	森林活用部
	スギ大径材の価値向上に繋がる「柁目板 CLT パネル」	浅田佐知子	木材活用部
	スマート林業技術研修会の開催	志水徳人	木材活用部
80	スギ大径材の価値を高める製材木取りの検討	LEE CHANGGOO	木材活用部
	シカを排除すれば皆伐地は森林に戻るのか？	伊東康人	森林活用部
	指導林家・青年林業士研修会の開催	浅田佐知子	木材活用部

4 外部に発表した事項

(1) 学会誌等

発表年月	発表タイトル・誌名	執筆者	所属
令6.4	Isotope Distribution Analysis in H ₂ ¹⁸ O Pulse-Labeled Trees Frozen with Liquid Nitrogen Physiologia Plantarum https://doi.org/10.1111/ppl.14292	Yan Xiang, Akira Kagawa, <u>Satoshi Nagai</u> , Yuko Yasuda, Yasuhiro Utsumi	木材活用部
令6.6	Intraspecific variation in root system structure in a <i>Pinus thunbergia</i> stand grown in a gravelly spit coast Journal of Forest Research https://doi.org/10.1080/13416979.2024.2431756	Yasuhiro Hirano, <u>Chikage Todo</u> , Toko Tanikawa, <u>Keitaro Yamase</u> , Mizue Ohashi, Masako Dannoura, Yuki Okamoto, Ryuusei Doi, Gen Yoshida, Hidetoshi Ikeno	森林活用部 (所付)

令7.2	Response of the oak ambrosia beetle <i>Platypus quercivorus</i> (Coleoptera: Platypodinae) to volatiles from fresh and dried leaves. Arthropod-Plant Interactions https://doi.org/10.1007/s11829-024-10114-0	Duy Long Pham, <u>Yasuto Ito</u> , Michimasa Yamasaki	森林活用部
令7.2	Antennal responses to volatiles related to host location in the ambrosia beetle <i>Platypus quercivorus</i> (Murayama). Journal of Chemical Ecology 51: 27 https://doi.org/10.1007/s10886-025-01580-8	Ryuichi Okada, <u>Yasuto Ito</u> , Michimasa Yamasaki	森林活用部
令7.3	<i>Chylorhabditis crispulae</i> n. sp. (Rhabditida: Rhabditidae) isolated from dead wood of <i>Quercus crispula</i> Blume collected in Hyogo, Japan Nematology https://doi.org/10.1163/15685411-bja10393	Natsumi Kanzaki, Michimasa Yamasaki, <u>Yasuto Ito</u> , Keiko Hamaguchi, Yuta Fujimori, Yuko Takeuchi-Kaneko	森林活用部

(2) 学会等講演会

発表年月	発表タイトル・発表先	発表者	所属
令6.5	樹木根系が地盤内の体積含水率変化に及ぼす影響 砂防学会	高橋良輔、藤堂千景、 鏡原聖史、坂東聡、 柳田寛、根本信行、 岡崎敬祐、伊東陽希、 池田智博	森林活用部
令6.5	豪雨による自然斜面の崩壊に対する樹木根系の崩壊防止力の推定—未崩壊斜面からの推定— 砂防学会	岡崎敬祐、藤堂千景、 鏡原聖史、坂東聡、 柳田寛、根本信行、 高橋良輔、伊東陽希	森林活用部
令6.6	水平・垂直方向の直径の違いを考慮した3次元根系の可視化 根研究学会	田中優斗、山瀬敬太郎、 藤堂千景、大橋瑞江、 今若舞、平野恭弘、 谷川東子、檀浦正子、 池野英利	(所付) 森林活用部

令6.6	SfM/MVS に基づく3次元モデルにより取得した立木間樹木根系データの評価 根研究学会	池野英利、田中雅也、 <u>藤堂千景</u> 、平野恭弘、谷川東子、大橋瑞江、今若舞、檀浦正子、 <u>山瀬敬太郎</u>	森林活用部 (所付)
令6.6	表層から深さ1.5mまでの土壌炭素及び窒素濃度の変化がスギ細根形態に与える影響 根研究学会	柳瀬亮太、谷川東子、黒見信輔、金子祥也、杵山哲矢、林亮太、 <u>山瀬敬太郎</u> 、 <u>藤堂千景</u> 、池野英利、大橋瑞江、檀浦正子、平野恭弘	(所付) 森林活用部
令6.8	Studies of flight characteristics of the Japanese bark beetle, <i>Platypus quercivorus</i> , using improved flight mills. 国際昆虫会議	Haruki Konishi, Mizue Ohashi, Hidetoshi Ikeno, Ryuichi Okada, Michimasa Yamasaki, <u>Yasuto Ito</u>	森林活用部
令6.9	Quantitative analysis of introduced elements in a <i>Cryptomeria japonica</i> stem using EDXRF The 10 th Pacific Regional Wood Anatomy Conference (PRWAC)	<u>Satoshi Nagai</u> , Yasuhiro Utsumi	木材活用部
令6.9	How to trace movement of water within wood using water enriched in oxygen-18 and deuterium The 10 th Pacific Regional Wood Anatomy Conference (PRWAC)	Yan Xiang, Akira Kagawa, <u>Satoshi Nagai</u> , Yuko Yasuda, Yasuhiro Utsumi	木材活用部
令6.11	表層から個体根系最深部までの土壌物理化学特性の変化がスギ細根形態に与える影響 根研究学会	柳瀬亮太、谷川東子、 <u>藤堂千景</u> 、黒見信輔、金子祥也、 <u>山瀬敬太郎</u> 、池野英利、大橋瑞江、檀浦正子、杵山哲矢、林亮太、平野恭弘	森林活用部 (所付)
令7.3	カシノナガキクイムシの寄主木への飛来のしかた 日本生態学会	青山尊、 <u>伊東康人</u> 、山崎理正	森林活用部
令7.3	スギ採種園におけるカメムシ類の季節変動と加害が発芽率に及ぼす影響 日本森林学会	中川湧太、八瀬順也	森林活用部

令7.3	コナラ萌芽再生個体の土壌補強強度は、伐採後何年まで減少するのか？ 日本森林学会	藤堂千景、山瀬敬太郎、 谷川東子、池野英利、 大橋瑞江、檀浦正子、 平野恭弘	森林活用部 (所付)
令7.3	深さ1mまでのスギ細根次数別形態特性－根系掘取法と断面スキャナ法の比較 日本森林学会	柳瀬亮太、谷川東子、 藤堂千景、黒見信輔、 金子祥也、吉田陽向、 池野英利、大橋瑞江、 山瀬敬太郎、檀浦正子、 林亮太、平野恭弘	森林活用部 (所付)
令7.3	林内における樹木根系形態計測に対する SfM/MVS 法の有用性についての検討 日本森林学会	田中優斗、山瀬敬太郎、 藤堂千景、大橋瑞江、 森健介、平野恭弘、 谷川東子、檀浦正子、 池野英利	(所付) 森林活用部
令7.3	幹周囲の根がもたらす土壌崩壊防止力の樹種間の比較 日本森林学会	藤井杏佳、山瀬敬太郎、 平野恭弘、藤堂千景、 谷川東子、池野英利、 檀浦正子、森健介、 大橋瑞江	(所付) 森林活用部
令7.3	防鹿柵の開放による広葉樹植栽木と植生への影響 日本森林学会	伊東康人、中川湧太、 藤堂千景、山瀬敬太郎	森林活用部 (所付)
令7.3	体重と初速がカシノナガキクイムシの飛翔距離に及ぼすカスケード効果 日本森林学会	山崎理正、 Pham Duy Long、 伊東康人、岡田龍一、 池野英利	森林活用部
令7.3	The wood of Ginkgo biloba has a non-conductive cell, Ginkgo-fiber International Symposium on Wood Science and Technology (ISWST) 2025	Kayo Kudo, Yasuhiro Utsumi, Satoshi Nagai, Katsuhiko Takata	木材活用部
令7.3	スギ大径材から柁目の現しを意図した製材のヤング係数分布モデルの検討 日本木材学会	船引大輔、 LEE CHANGGOO、 永井智、井道裕史、 加藤英雄	木材活用部
令7.3	木造軸組工法で用いられる横架材端接合部のせん断クリープ試験－TAPOS と在来仕口の比較－ 日本木材学会	永井智、藤田和彦	木材活用部

令7.3	2種類の人工乾燥方法によるスギ上 下心去り平角の品質評価 日本木材学会	LEE CHANGGOO、 船引大輔、永井智、 井道裕史	木材活用部
令7.3	モウソウチクにおける稈齢による通 水特性及び組織構造の影響 日本木材学会	相衍、林飛艶、古賀信也、 久米朋宣、楊茂皎、 永井智、内海泰弘	木材活用部

(3) 研究会報・資料集等

発表年月	発表タイトル・発表先	発表者	所属
令6.6	兵庫県におけるスギ大径材の利用拡大に向け た研究開発 杣径 No.73	永井智	木材活用部
令6.7	大径材の新たな利用技術の開発ー構造材や造 作材に利用可能なスギ桁目板 CLT パネルー 兵庫の林業 No.309	浅田佐知子	木材活用部
令7.1	針葉樹人工林から広葉樹林への樹種転換後、 8-15年経過した箇所のみ 兵庫の林業 No.311	藤堂千景	森林活用部

(4) 研究会（大会・研究会）等講演

発表年月	講演タイトル・講演先	講演者	所属
令6.5	試験研究の紹介「ある研究員の害虫研究遍歴」 (兵庫県農薬卸商組合)	八瀬順也	森林活用部
令6.5	高強度梁仕口「Tajima TAPOS」、スギ大径材を 活用した新技術 (県林務課)	永井智、 浅田佐知子	木材活用部
令6.6	昆虫学へのアプローチ「昆虫と害虫」 「入門ゼミ」(龍谷大学農学部)	八瀬順也	森林活用部
令6.6	試験研究の紹介「虫の気持ちになって考えた 視覚的害虫防除資材」 令和6年度試験研究成果発表会 (県立農林水産技術総合センター)	八瀬順也	森林活用部
令6.6	非住宅木造建築研修会 (県林務課ほか)	永井智、 浅田佐知子	木材活用部
令6.6	森林林業技術センターの紹介、花粉が少ない スギ (兵庫県いなみ野学園)	志水徳人、 山下毅、 中川湧太	木材活用部 森林活用部
令6.7	カメムシ被害と対策 森林保護学実習(県立森林大学校)	中川湧太、 八瀬順也	森林活用部

令6.7	実習（木材強度試験・電子顕微鏡観察・開発技術紹介・実験棟見学） （兵庫県立大学環境人間学部）	永井智、 船引大輔、LEE CHANGGOO	木材活用部
令6.9	県産木材の活用に役立つ基礎知識と研究成果 （県林務課）	永井智	木材活用部
令6.9	里山林管理と植物の多様性 里山論（県立森林大学校）	山瀬敬太郎	（所付）
令6.9	里山林の役割と保全 （兵庫県立大学）	山瀬敬太郎	（所付）
令6.10	里山林管理と植物の多様性 森林ボランティア講座・入門編（治山課）	山瀬敬太郎	（所付）
令6.10	里山管理と植生調査 森林ボランティア講座・リーダー編（治山課）	山瀬敬太郎	（所付）
令6.10	防災と植物 （姫路市立生涯学習大学校）	山瀬敬太郎	（所付）
令6.10	シカ不嗜好性広葉樹の特性と活用、広葉樹の樹種特性 令和6年度県産広葉樹苗木育成研修 広葉樹を深く知る「公開講座」（県林務課）	伊東康人	森林活用部
令6.10	緑化センターの紹介、林業用種子生産について 造林学実習（県立森林大学校）	中川湧太	森林活用部
令6.10	樹木根系の表層崩壊防止機能を評価する試み 研究交流会（森林総合研究所九州支所）	藤堂千景	森林活用部
令6.10	高強度梁仕口 TAPOS （石川県建築士事務所協会）	永井智	木材活用部
令6.11	森林の持つ減災機能 森林機能保全I（県立森林大学校）	藤堂千景	森林活用部
令6.11	防災と植物 （ききみみずきん 講演会）	山瀬敬太郎	（所付）
令6.11	里山の今を知り、手入れをして、災害に強い森にする 第3回 環境学フォーラム(Academia ESPERS)	山瀬敬太郎	（所付）
令6.11	電子顕微鏡による木材の組織構造観察 木材物理学実習（県立森林大学校）	永井智	木材活用部
令6.11	兵庫県産木材見学ツアー （県林務課ほか）	永井智、 浅田佐知子	木材活用部

令6.12	防災を考えた森づくり 保全整備のための人材育成講座 (北雲雀きずきの森)	山瀬敬太郎	(所付)
令6.12	海外飛来性害虫の殺虫剤抵抗性管理 「遠くから飛んでくる害虫に薬剤抵抗性管理という考え方は通用するのか？」 殺虫剤抵抗性対策シンポジウム (農林害虫防除研究会)	八瀬順也	森林活用部
令6.12	スギ大径材の価値を高める新たな木取りの提案について、高強度梁仕口 TAPOS 加工等開発技術の紹介 非住宅木造建築研修会 (県林務課ほか)	浅田佐知子、 永井智	木材活用部
令6.12	強度試験 木材加工学実習 (県立森林大学校)	永井智、 船引大輔、 LEE CHANGGOO	木材活用部
令7.1	生物多様性の保全と回復に向けた山の活用と地域循環を考える 丹波地域環境パートナーシップ会議 10周年シンポジウム (丹波地域環境パートナーシップ会議)	山瀬敬太郎	(所付)
令7.2	里山における防災林整備 (北摂里山大学)	山瀬敬太郎	(所付)
令7.3	森林における防災林整備 (三木防災リーダーの会研修会)	山瀬敬太郎	(所付)
令7.3	試験研究の紹介「趣味と職業」 令和6年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 (西日本農業研究センター)	八瀬順也	森林活用部

(5) ニュース・情報誌等

発表年月	発表タイトル・発表先	発表者	所属
令和6年度は該当なし			

(6) 雑誌等

発表年月	発表タイトル・誌名先	発表者	所属
令6.8	マツ材線虫病抵抗性アカマツ品種「播磨の緑」の生育状況と緑枝接ぎによる接ぎ木活着率の向上 森林技術 No.988 p22-25	吉野豊、 中川湧太	森林活用部

令6.8	山崎にて 全国林業試験研究機関協議会会誌「研究の窓」	八瀬順也	森林活用部
------	-------------------------------	------	-------

(7) 技術書籍等

発表年月	書籍名・出版社	内容	執筆者	所属
令6.10	根のきほん (誠文堂新光社)	環境をささえる根 (減災と根)、樹木種 による根系の違い (ケヤキ)	藤堂千景 (部分執筆)	森林活用部

(8) 新聞

発表年月	記事名	新聞社	対応者	所属
令6.12	住木センターで接合耐 力の性能評価 兵庫 県・TAPOS	日刊木材新聞社	永井智	木材活用部

(9) テレビ・ラジオ

発表年月	内容	提供先	対応者	所属
令7.1	花粉の少ないスギにつ いて ・少花粉スギの紹介 ・花粉発生源対策に 向けた兵庫県の取組 紹介	関西テレビ 旬感 LIVE とれたて (生中継コーナー)	中川湧太	森林活用部

5 試験研究成果・事例発表会

タイトル及び提供者	開催年月日及び場所	参加者数
令和6年度は開催なし		

6 森林林業技術フォーラム

タイトル及び提供者	開催年月日及び場所	参加者数
令和6年度は開催なし		

7 森林林業技術センター公開デー

内容	開催年月日 及び場所	参加者数
<u>施設見学ツアー</u> <ul style="list-style-type: none"> 木の根っこから考える防災 木材の強度を測ってみよう スギ・ヒノキの球果・種子を観てみよう 電子顕微鏡で木材をミクロに観察してみよう 	令6.11.17 森林林業技術 センター	一般県民 206名
<u>展示</u> <ul style="list-style-type: none"> 木の根っこのホログラム 身近で見られる森の虫の健気な世界特別展 		
<u>無料体験・イベント</u> <ul style="list-style-type: none"> 丸太ダーツ チェーンソーアート実演 葉っぱのしおり、松ぼっくりのクリスマスツリー、木のブックスタンドづくり チェーンソーを触ってみよう（県立森林大学校企画） 		

8 特許・実用新案・商標登録の出願および登録状況

森林林業技術センターにおいて、試験研究に従事する職員がした職務発明で、令和7年3月現在、特許法に基づく特許登録が1件、商標法に基づく商標登録が1件ある。

【特許】

職務発明 提出年月日 認定年月日	特許登録 出願年月日 登録年月日	発明の名称	発明の概要	備考
平 25.8.28 平 25.8.30	平 25.9.5 平 30.5.25	テーパー加工された仕口を備えた横架材並びにそのプレカット方法並びにその横架材を加工するための加工機およびプログラム	木造軸組工法住宅の梁・桁において、スギ材は柔らかく接合強度が弱いとのイメージがあったが、仕口の形状を開発することにより、スギ材の接合強度を飛躍的に高めた。	特許 第 6340499 号

【商標登録】

商標出願 提出年月日 認定年月日	商標登録 出願年月日 登録年月日	商標の名称	指定商品又は指定役務 並びに商品及び役務の 区分	備考
平 26.7.28 平 26.8.14	平 26.9.5 平 27.2.20	TAPOS (読み方: テイポス)	【第類】 第 19 類 【指定商品】 加工木材 【第類】 第 40 類 【指定役務】 木材の加工 工 ※特許第 6340499 号に 係る加工品および加工 役務を対象	登録第 5742816 号 令 17.2.20 ま で登録済

9 表彰・受賞・学位等

表彰・受賞名	表彰・受賞タイトル	氏名	年月日
令和 6 年度は該当なし			

10 現地指導

年月	内容	実施場所	主な指導者	所属
令 6.5	里山における防災林整備	川西市	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.6	山火事跡地の復旧	赤穂市	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.6	夏緑樹林の更新方法	宝塚市	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.7	夏緑樹林の更新方法	宝塚市	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.7	苗畑指導	淡路市、宍粟市、香美町	中川湧太、 岩槻和正	森林活用部
令 6.9	夏緑樹林の管理方法	宝塚市	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.11	兵庫県産木材見学ツアー (県林務課ほか)		永井智、 浅田佐知子	木材活用部
令 6.12	夏緑樹林の更新方法	宝塚市	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.12	TAPOS 技術等指導	宍粟市	永井智	木材活用部
令 7.2	枝打ち実習指導 (県立山の学校)	宍粟市	志水徳人、 浅田佐知子、 山下毅	木材活用部

11 委員・アドバイザー等

年月	委員会等名称	依頼元	氏名	所属
平 25.8 ~ 現在	神戸市「六甲山森林整備戦略」森林整備に関する研究会 委員	神戸市防災課	山瀬敬太郎	(所付)

平 27.4～ 令 7.3	兵庫県立大学 客員教授	兵庫県立大学 環境人間学部	山瀬敬太郎	(所付)
平 28.4～ 現在	生物多様性アドバイザー	県環境部 自然鳥獣共生 課	山瀬敬太郎	(所付)
令 1.4～ 令 7.3	日本木材学会地域木材産業 研究会 幹事・代表幹事	日本木材学会 地域木材産業 研究会	永井智	木材活用部
令 3.3～ 現在	尼崎の森中央緑地緑化技術 検討会 委員	県阪神南県民 センター	山瀬敬太郎	(所付)
令 4.10～ 現在	里山保全委員会 委員	国崎クリーン センター	山瀬敬太郎	(所付)
令 5.6～ 現在	日本木材学会 代議員	日本木材学会	永井智	木材活用部
令 5.7～ 現在	こうべ森と木のプラットフ ォーム アドバイザー	ひょうご森林 林業協同組合 連合会	山瀬敬太郎	(所付)
令 5.8～ 令 7.7	木材学用語集検討小委員会	日本木材学会	永井智	木材活用部
令 6.1～ 令 7.3	新温泉町森林・林業ビジョ ン策定委員会 委員	新温泉町	伊東康人	森林活用部
令 6.2～ 現在	日本緑化工学会編集委員会 委員 (大会特集号 (技術報 告部門) 編集委員長)	日本緑化工学 会	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.3～ 現在	「温帯気候の里山における 持続可能な木質バイオマス 燃料生産システムの構築実 証事業」推進委員会 委員	徳島地域エネ ルギー	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.4～ 令 7.3	近畿中国森林管理局技術開 発委員会 委員	近畿中国森林 管理局	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.4～ 令 7.3	合法性・持続可能性の証明 及び間伐材の確認、発電用 に供する木質バイオマスの 証明に係る事業者認定審査 委員会 委員	兵庫県木材業 協同組合連合 会	山瀬敬太郎	(所付)
令 6.4～ 令 7.3	山の学校運営協議会 委員	県立山の学校	山瀬敬太郎	(所付)

令6.4～ 令7.3	農業三賞（林業賞）選考委員	県農林水産部	山瀬敬太郎	(所付)
令6.4～ 令7.3	指導林家認定委員	県農林水産部 林務課	山瀬敬太郎	(所付)
令6.4～ 現在	森林・山村多面的機能発揮 対策審査会 委員	ひょうご森林 林業協同組合 連合会	高瀬光朗	森林活用部
令6.7～ 現在	県立一庫公園管理運営協議 会 委員	兵庫県園芸・ 公園協会	山瀬敬太郎	(所付)
令6.9～ 現在	第4回豊岡市森林・林業ビ ジョン推進委員	豊岡市	藤堂千景	森林活用部
令6.10～ 現在	ひょうご森づくり活動賞審 査会 委員	兵庫県緑化推 進協会	高瀬光朗	森林活用部
令6.11～ 現在	応用森林学会 副会長	応用森林学会	山瀬敬太郎	(所付)
令6.12～ 現在	森林応用研究 編集委員	応用森林学会	藤堂千景	森林活用部
令7.1～ 現在	特別母樹林の指定の見直し 検討会 委員	林野庁	中川湧太	森林活用部
令7.3～ 現在	森と緑とのふれあい支援事 業審査会 委員	兵庫県緑化推 進協会	高瀬光朗	森林活用部

12 研修生・見学生の受け入れ

(1) トライやるウィーク及びインターン

学校名	受入人数	内容	期間	担当部署
令和6年度は受け入れなし				

(2) 研修生・実習生の受け入れ

学校名	受入人数	内容	期間	担当部署
県立山の学校	9	製材実習指導	令6.6.27	木材活用部

(3) 見学者等の受け入れ

月	県内	県外	海外	計
4	18			18
5	0			0
6	6			6
7	0			0
8	3			3
9	0			0
10	0			0
11	0			0
12	0	12		12
1	0			0
2	0			0
3	0			0
合計	27	12		39

13 研究員の受け入れ

所属・氏名	内容	期間	担当部署
(株)しその森の木 山本奈央	スギ桁目板3層 CLT パネルの安定的な 製品生産に向けた品質管理技術の確立	令 5.4.3～ 令 7.3.31	木材活用部

14 資格・認定研修への講師派遣

研修名	主催者	講師名	期間	受講対象 ・人数	研修内容
森林ボランティア講座 (入門編・リーダー編)	県 治山課	山瀬敬太郎 山下毅	令 6.10. 20,27	一般県民 72名	里山管理の方法
令和6年度林業種苗 生産事業者講習会	県 林務課	中川湧太 岩槻和正	令 7.2.7	一般県民 5名	種苗の産地及び系 統に関する事項及 び、種苗の生産技 術に関する事項

15 出版物等

出版物名	発行日	発行部数
林業普及職員活動実績 (年輪第 47集)	令 6.6	HP 掲載 https://sinrin.hyogo- nourinsuisangc.jp/wp/popularization
令和5年度 兵庫県立農林水産技術 総合センター (森林林業編) 年報	令 6.7	190部

令和6年度 兵庫県立農林水産技術総合センター年報(森林林業編)

令和7年 7月 発行

発行 兵庫県立農林水産技術総合センター

森林林業技術センター

兵庫県宍粟市山崎町五十波 430

電話 0790-62-2118

FAX 0790-62-9390

HP <https://sinrin.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/>

